

三毛牧夫 (著)

外科基本手技とエビデンスからときほぐす

レジデントのためのヘルニア手術

今村清隆

手稻溪仁会病院外科

2014年4月に前任の外科初期研修担当の指導医から引き継ぐにあたり、当時の外科部長と2人で全国にあるいくつかの有名研修病院の外科研修システムの見学に出かけた。同年1月に亀田総合病院を訪問した際にシミュレーションセンターを見学した。そこに、『Chassin's Operative Strategy in General Surgery, 4th edition』(Springer, 2014)がさりげなく置いてあった。当時Surgeryと名がつく教科書を買って漁っていた自分以外に、“誰かがこの本を読んでいる”ことに驚いた。この本には無影灯の正しい使用法や、手術をする際の姿勢の重要性についてなど手術の基本についての細かい説明があったからだ。本書『外科基本手技とエビデンスからときほぐすレジデントのためのヘルニア手術』著者の三毛牧夫先生が当時、亀田総合病院の外科部長をされていたことを思い出し、本書でも個々の手術手技だけでなくもっと基本的なところから書かれている点が似ていると感じた。

将来、後輩に外科を教える人は、必ず外科基本手技については一通り勉強してほしい。また、現在に至る

までの外科の歴史についても関心を持ち、後輩に自分の好み(Preference)だけではなく外科の原則(Principle)を教えるようにする必要がある。もちろんそれだけでは不十分で、本田宗一郎が「過去を大事にして、そればかりにつかまっている人が職人だ。同じ過去でも、それに新しい理論を積み重ねて、日々前進する人が技術屋だ」と話していたように¹⁾、われわれも外科医として明日に向けて研鑽を重ねる必要がある。

本書では鼠径ヘルニアを題材に外科手技の基本から、外科医の姿勢、歴史、そして最近の知見まで余すことなく説明している。初学者に難解とされる鼠径部の解剖についても、他の本からの引用ではなく、著者自らが描いた鉛筆画を基にした多くのカラーイラストを用いて説明している。腹腔鏡手術の流行により、鼠径部切開法についてここまで詳しく教わったことがないという指導医が増えている。女性鼠径ヘルニアについての詳細な記載もある。時間的制約のある手術中には、ここまで丁寧に教えられない。よって、学習者はゆっくりと本書を読みながら外科の

基本と鼠径ヘルニアの解剖、そして2018年1月に発刊された鼠径部ヘルニアの国際ガイドライン²⁾で標準とされたりヒテンシュタイン法について知ってほしい。

本書の1つの特徴として、本文の間に三毛先生ご自身の似顔絵のついたコラムが数えたら90か所以上あった。読んだら誰かに自慢したくなるようなヘルニアや外科に関するうんちくが山ほど詰まっている。これだけ順番に読んでいても楽しい。

手術の成功のためには、探究心と、これまでの文献と病態生理に基づく明晰な思考力と、技術力を要する。ヘルニアだけでなく外科の基本について学ぶための、そしてレジデントだけでなく指導医にも、とてもお薦めの一冊だ。

参考文献

1) 岩倉信弥: 1分間本田宗一郎一常識を打ち破る人生哲学77. SBクリエイティブ, 2013.

2) Hernia. 2018 [PMID: 29330835]

●A4/頁172/2020年10月

定価: 本体5,800円+税

[ISBN978-4-260-04316-8]

医学書院 刊